
苦勞人間

唐務新斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

苦勞人間

【Nコード】

N4383P

【作者名】

唐務新斗

【あらすじ】

どこかの町で流れる無責任なうわさ話、その中の一つ。

知っているか。あの三丁目のコンビニのところを右に曲がって、まっすぐに突っ切って行つたところにある大きな建物のこと。

真っ白い豆腐みたいな素っ気無い建物、分かる？

どうも、あそこは怪しい実験が行われているらしいんだよな。あくまで噂なんだけどさ。時折、うめき声や悲鳴が聞こえるんだってさ。

なんでも昔々、あの戦争の時の実験施設がなぜか取り壊されずに残ったものだって言われているけど、不気味だよなあ。

この俺も、すすり泣きを聞いたことがある。

足りない、まだ足りないって悲しげな男の声なんだよ。

ここで「なにが足りないんだ？」って言うっちゃいけないんだってさ。なんでかって？ それは分からない。言ってしまった人間は、あの建物から出てきた九人の男に捕まえられて、それっきり誰も戻ってこれやしなかったからだ。

あれ？ じゃあなんで「足りないんだ？」なんて言ってしまった人間がいるって分かるんだろう。

まあ噂なんてそんなもんだ。

無責任な噂。

本当だつてば、嘘じゃないって。

あの建物は研究所だよ。軍の施設の跡地を誰かが買い取って、また新しく立派な施設を作つたんだよ。

でも、金をかけすぎてな。そこに住んでいる研究者は金に困って自分のクローンを九人作つたんだ。クローン人間を働かせて、少しでもクローンを返そうとしているんだよ。

そう九人のクローン人間。九クローン人間。苦勞人間。

そして俺もそのうちの一人なんだよね。

（後書き）

なんか違うんだよねあ、出したい雰囲気だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4383p/>

苦勞人間

2010年12月11日22時48分発行